



2026年4月10日

各 位

会 社 名 ダブル・スコープ株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 崔 元 根  
 (コード番号 6619 東証プライム)  
 問合せ先 取締役 大内 秀雄  
 (<https://w-scope.co.jp/ir/contact.html>)

上場維持基準への適合に向けた計画（改善期間入り）について

当社は、2026年1月31日時点において、プライム市場における上場維持基準（流通株式時価総額）に適合しない状態となりました。下記のとおり、上場維持基準への適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間（改善期間）

当社の2026年1月末時点におけるプライム市場の上場維持基準の適合状況は、以下のとおりとなっており、流通株式時価総額については基準に適合していません。当社は、2027年1月末までに上場維持基準を充たすために各種取組を進めてまいります。

	株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の状況 (基準日時点)	25,821人	516,268単位	95億円	88.9%
プライム市場 上場維持基準	800人	20,000単位	100億円	35.0%
適合状況	適合	適合	不適合	適合
計画期間 (改善期間)	—	—	2027年1月末	—

※当社の適合状況は、株式会社東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組内容

添付の「プライム市場上場維持基準の適合に向けた計画書」をご参照ください。

3. その他

流通株式時価総額基準について、2027年1月末までの改善期間内に適合していることが確認できなかった場合には、東京証券取引所より監理銘柄（確認中）に指定されます。その後、当社が提出する2027年1月末時点の分布状況表に基づく東京証券取引所の審査の結果、適合している状況が確認されなかった場合には、整理銘柄に指定され、当社株式は2027年8月1日に上場廃止となる状況でございます。

当社は、プライム市場の上場基準への適合に向けて本計画を推進してまいります。適合期限である2027年1月31日までの改善の状況を見極め、株主の皆さまのご懸念を最小限に抑えるため、市場区分の変更といった選択肢も検討してまいります。

なお、ご説明すべき事実が生じた場合には、速やかに開示・発表いたします。

以 上

# プライム市場上場維持基準の適合に向けた計画書

# 目次

1. 上場維持基準の適合状況	P3
2. 上場維持基準の適合への計画期間(改善期間)	P4
3. 上場維持基準適合に向けた基本方針	P5-6
4. 現状の課題及び取り組み内容	P7-16

# 1. 上場維持基準の適合状況



	上場維持基準	当社	適合状況
株主数	800人	25,821人	○
流通株式数	20,000単位	516,268単位	○
流通株式時価総額	100億円	95億円	×
流通株式比率	35.0%	88.9%	○

※当社の適合状況は、株式会社東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものとなります。

※流通株式時価総額の算出にあたっては、事業年度末日以前3カ月間の日々の最終価格の平均値を採用しております。  
(184.13円)

## 2. 上場維持基準の適合への計画期間(改善期間)

計画期間(改善期間)：2027年1月末

	2026年1月末	2027年1月期	2028年1月期	2029年1月期
中期経営計画				
流通株式時価総額	不適合			

### 3. 上場維持基準適合に向けた基本方針

**当社は二次電池電池市場の成長とともに事業を拡大してきました。電池業界は設備産業であり、生産能力に制約がある中で、市場の急成長に伴って、短期間で生産能力を増やしていかざるを得ない状況が続き、その結果として、販売先を大手電池メーカー1社に依存し、製品用途もEV向けに偏らざるを得ませんでした。**

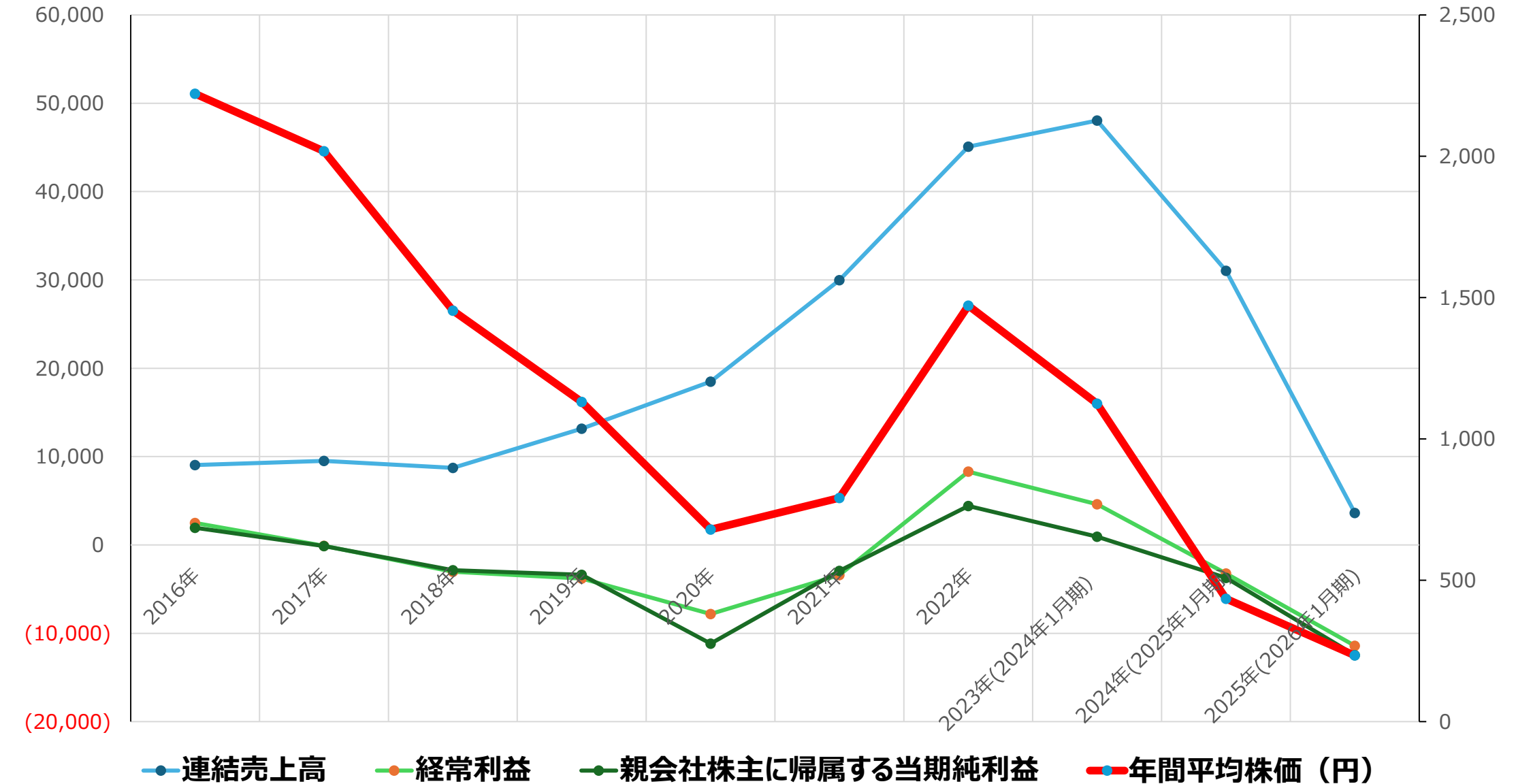
**このような状況で、2024年からの世界的なEV需要の低迷により売上高が急激に減少したことで業績が悪化し、それに伴って株価が下がったことが流通株式時価総額が基準を下回った要因となっています（次ページ「直近10年間の業績と株価の推移」ご参照）。**

**これらのことから、製品用途や販売先の多様化を進め、売上高を増加させていくことで業績を回復させ、流通株式時価総額基準の適合をはかる方針です。**

# 直近10年間の業績と株価の推移

業績：百万円

株価：円





## 4. 現状の課題及び取り組み内容

セパレータ事業において急速な市場拡大が予想されたEV用途需要に向け設備投資を継続したが、市場の急変に拠り2025年1月期下期から売上高が大幅に低下しました。

それまでの期間単一顧客向けEV需要予想に対応することで生産能力余力がなく、新規顧客の開拓ができておりませんでした。市場環境の変化に伴い、当社では以下の取り組みを継続しており、今期以降の売上高や営業利益の改善を目指しております。

### ➤ 売上高改善への取り組み

	2025年1月期上期以前	2025年1月期下期以降	2027年1月期以降
単一顧客依存度	90%超	新規顧客の開拓に 取り組む	複数新規顧客との取引開始 中期計画2029年1月期までに セパレータ及びIEM各々 新規顧客を加え予算化
単一セグメント依存度	EV構成比72%	ESS案件・IEM案件の開拓	ESS・IEM案件の増加 中期計画2029年1月期には EV構成比がほぼ半分となり ESS + IEMと並ぶ計画

ESS…エネルギー貯蔵システム (Energy Storage System)

IEM…イオン交換膜 (Ion Exchange Membrane)

## 4. 現状の課題及び取り組み内容

### セパレータ事業

セパレータは正極材、負極材、電解液と並ぶリチウムイオン電池の主要4部材として、電池の安全性を担保しながら電池性能を最大限に引き出す素材です。

リチウムイオン電池

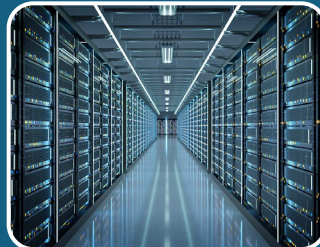
EV用途

ESS用途

民生品用途



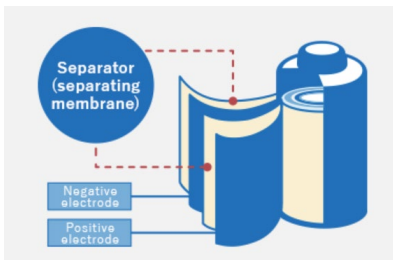
2028年以降欧米のEV生産の回復を見込む  
新規顧客との技術協議継続中



リチウムイオン電池の需要急伸中の用途  
AIデータセンター、系統電源（送電網近代化）、  
再生可能エネルギー蓄電用途で設備投資急増中



動力系（モーターを動かす）電池に強み  
電動工具、E-Bike、電動自転車に注力



## 4. 現状の課題及び取り組み内容

### イオン交換膜事業

イオン交換膜(IEM)は、特定のイオンを選択的に透過させる薄膜です。陽イオンのみを透過させる陽イオン交換膜と、陰イオンのみを透過させる陰イオン交換膜、更に両極の性質を持ち合わせたバイポーラ膜を生産しております。

#### イオン 交換膜

選択析出

排水処理

水処理



塩湖及び鉱石からのリチウム析出

韓国及びアルゼンチンですでに設備稼働開始

今後交換需要により安定成長



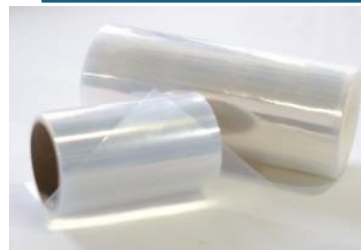
工場排水処理

酸洗廃液からの酸回収



純水・超純水の製造

脱塩処理と塩分濃度差発電への取り組み



## 4. 現状の課題及び取り組み内容

新規案件拡大伸長を通じて、2029年1月期の連結ベース**黒字化**を目指します。

2027年1月期

2028年1月期



## 4. 現状の課題及び取り組み内容

### ▶ 利益改善への取り組み

#### セパレータ事業

- 売上高増による稼働率の改善  
=> 固定費の吸収
- 生産性改善効果（人=>ソフト・設備）  
=> 人件費、原材料費の軽減
- 設備改造に伴う生産能力の増強  
=> 追加投資費用及び水道光熱費の軽減

#### イオン交換膜事業

- 安定受注開始に伴う固定費の平準化
- イオン交換膜モジュール組み立てによる付加価値増
- 顧客及び用途を分散させアプリケーション別の需要変動に備える

## 4. 現状の課題及び取り組み内容

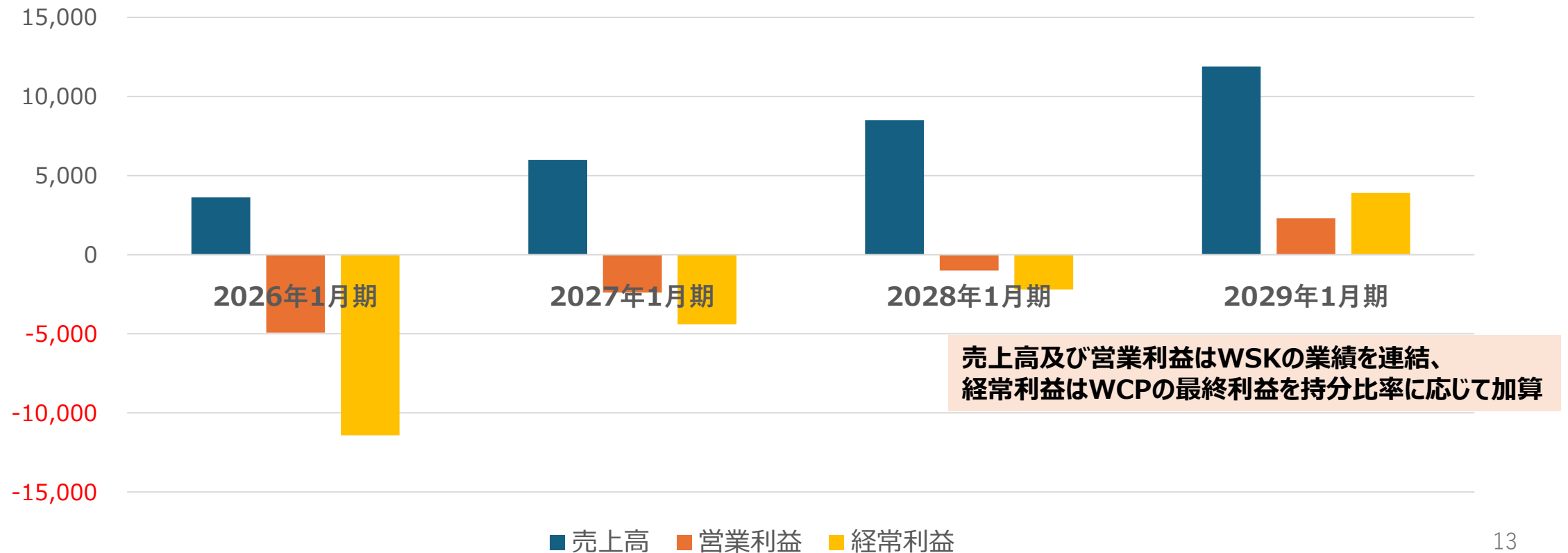
- 2026年1月期までの経営課題を踏まえ取り組んできた対策の効果が出始める  
2027年1月期～2029年1月期の中期計画を以下の通り策定

(単位：百万円)	2027年1月期	2028年1月期	2029年1月期
連結売上高	6,000	8,500	11,900
営業利益	△2,400	△1,000	2,300
経常利益	△4,400	△2,200	3,900

## 4. 現状の課題及び取り組み内容

- 現在の企業構造を前提にWSKを連結子会社、WCPを持分法適用会社として計画策定
- 2029年1月期には当社、WSK及びWCPの3社とも各単体及び連結で黒字化する計画
- 同期には持分法適用会社であるWCPの業績改善が大きい計画であり経常利益が営業利益を上回っている

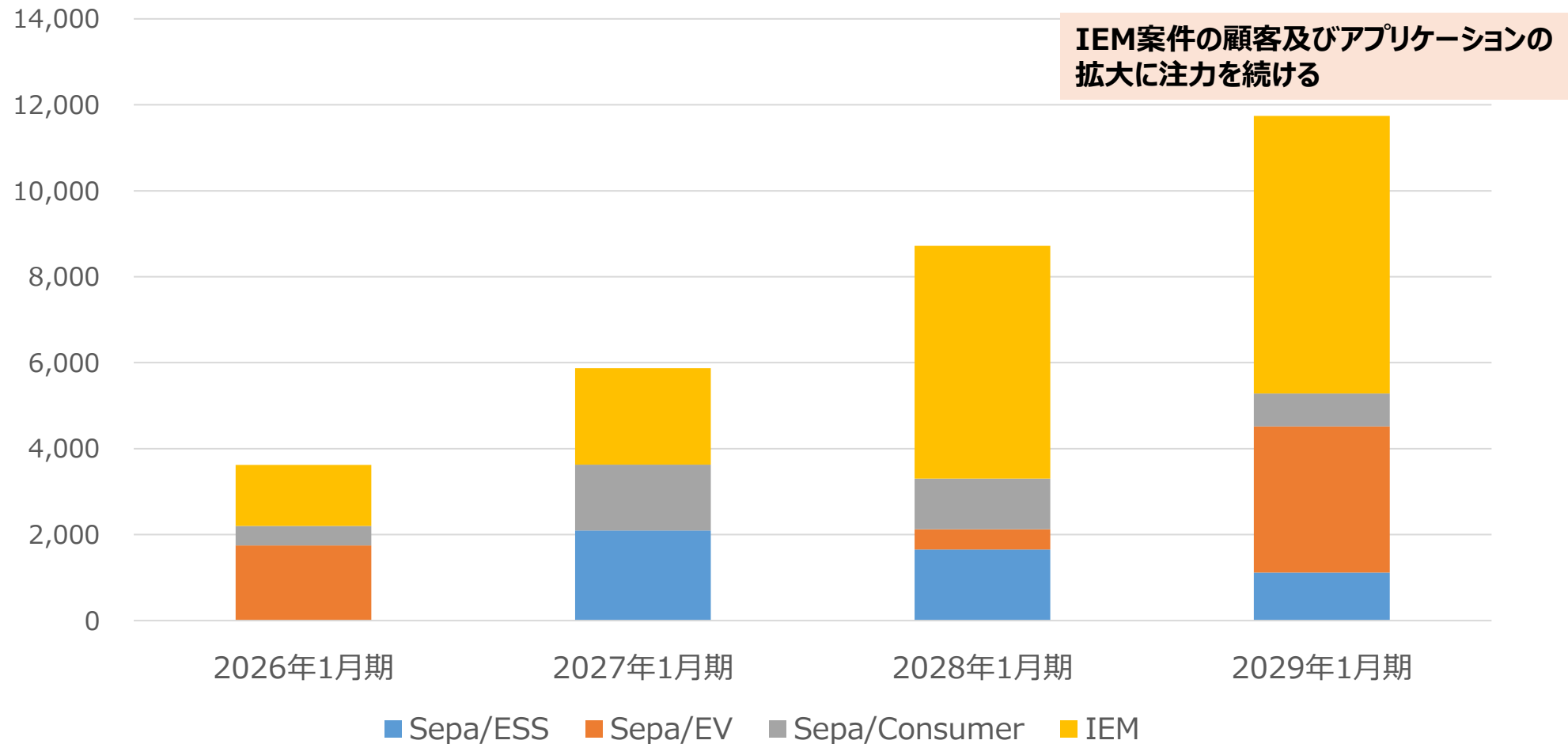
連結中期計画 (単位：百万円)



## 4. 現状の課題及び取り組み内容

### アプリケーション別連結売上高見通し (当社及びW-SCOPE KOREA CO., LTD.)

(単位：百万円)

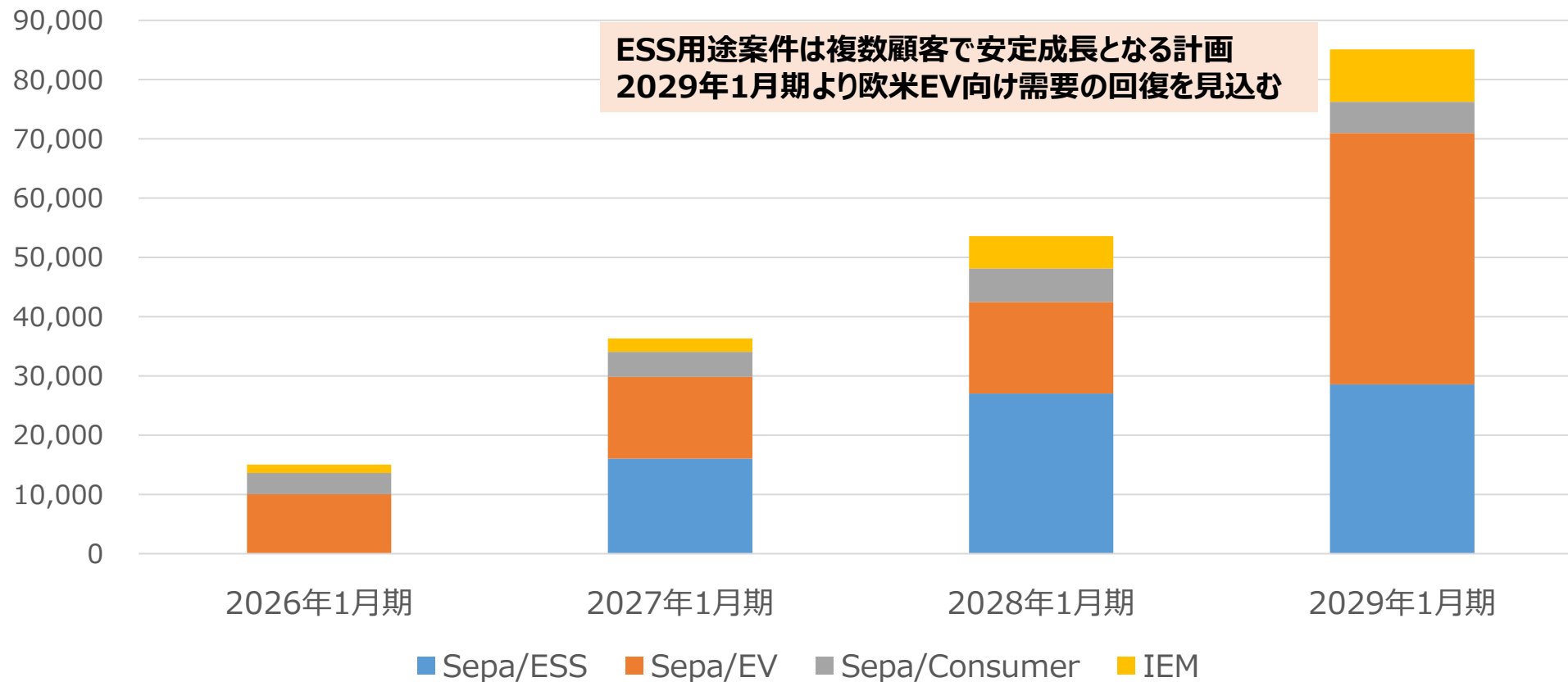




## 4. 現状の課題及び取り組み内容

### アプリケーション別グループ売上高見通し (連結売上高+W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO.,LTD.)

(単位：百万円)



## 4. 現状の課題及び取り組み内容

今後のIRスケジュール	2026年1月期				2027年1月期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
情報開示								
決算短信開示	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎
決算説明資料公表	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎
英文決算説明資料公表	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎
適時開示	決算等に重要な影響を及ぼす事項について日英同時開示を実施							
投資家との対話								
機関投資家説明会		●		●		◎		◎
個人投資家説明会	●		●		◎		◎	
各証券会社とのIR活動	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎
機関投資家との1on1会議	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎
ホームページ								
機関投資家説明会動画		●		●		◎		◎
個人投資家説明会動画	●		●		◎		◎	
その他								
市場区分の変更					◎	◎	◎	◎
株主事業報告会				●				◎

●は実施済み、◎は実施予定